

財務諸表

■貸借対照表

<資産の部> (単位：百万円)

区分	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)
現金預け金	85,119	96,634
現金	13,772	13,292
預け金	71,347	83,341
有価証券	103,689	121,683
国債	18,670	11,283
地方債	55,591	69,209
社債	21,628	24,954
株式	5,100	5,453
その他の証券	2,698	10,781
貸出金	778,676	829,358
割引手形	3,204	2,444
手形貸付	10,870	7,640
証書貸付	672,996	736,086
当座貸越	91,605	83,187
外国為替	442	755
外国他店預け	280	620
取立外国為替	161	135
その他資産	11,605	11,825
前払費用	48	46
未収収益	789	997
金融派生商品	49	34
金融商品等差入担保金	10,000	10,000
その他の資産	717	747
有形固定資産	10,661	10,296
建物	2,991	2,755
土地	6,558	6,452
リース資産	753	629
建設仮勘定	-	26
その他の有形固定資産	357	433
無形固定資産	850	847
ソフトウェア	785	593
リース資産	19	209
その他の無形固定資産	45	44
前払年金費用	6,388	7,132
繰延税金資産	1,858	1,460
支払承諾見返	7,604	7,105
貸倒引当金	△3,700	△3,690
投資損失引当金	△19	△11
資産の部合計	1,003,176	1,083,396

<負債の部> (単位：百万円)

区分	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)
預金	934,651	955,384
当座預金	30,152	39,494
普通預金	450,708	521,700
貯蓄預金	4,053	4,173
通知預金	2,585	3,018
定期預金	441,514	380,803
定期積金	1,565	1,550
その他の預金	4,071	4,643
コールマネー	60	64
借入金	5,000	63,700
借入金	5,000	63,700
外国為替	26	6
売渡外国為替	24	6
未払外国為替	1	0
その他負債	6,192	6,542
未払法人税等	99	328
未払費用	479	434
前受収益	504	486
給付補填備金	0	0
金融派生商品	44	37
リース債務	870	933
その他の負債	4,193	4,323
賞与引当金	457	454
退職給付引当金	1,590	1,565
偶発損失引当金	311	339
睡眠預金払戻損失引当金	24	12
再評価に係る繰延税金負債	584	580
支払承諾	7,604	7,105
負債の部合計	956,504	1,035,754

<純資産の部> (単位：百万円)

区分	前事業年度 (2020年3月31日)	当事業年度 (2021年3月31日)
資本金	9,061	9,061
資本剰余金	6,452	6,452
資本準備金	6,452	6,452
利益剰余金	30,409	30,922
利益準備金	2,628	2,628
その他利益剰余金	27,781	28,294
別途積立金	26,645	27,145
繰越利益剰余金	1,136	1,148
自己株式	△676	△676
株主資本合計	45,248	45,759
その他有価証券評価差額金	461	931
繰延ヘッジ損益	△0	△0
土地再評価差額金	962	950
評価・換算差額等合計	1,423	1,882
純資産の部合計	46,671	47,642
負債及び純資産の部合計	1,003,176	1,083,396

■損益計算書

(単位：百万円)

区分	前事業年度 (自2019年4月1日 至2020年3月31日)		当事業年度 (自2020年4月1日 至2021年3月31日)	
	経常収益	13,286	13,016	13,016
資金運用収益	9,786	9,677	9,677	9,677
貸出金利息	8,827	9,040	9,040	9,040
有価証券利息配当金	900	556	556	556
コールローン利息	0	0	0	0
預け金利息	47	74	74	74
その他の受入利息	11	6	6	6
役員取引等収益	2,455	2,663	2,663	2,663
受入為替手数料	623	611	611	611
その他の役員収益	1,831	2,052	2,052	2,052
その他業務収益	171	202	202	202
外国為替売買益	44	36	36	36
商品有価証券売買益	0	0	0	0
国債等債券売却益	47	148	148	148
その他の業務収益	78	16	16	16
その他経常収益	873	472	472	472
償却債権取立益	48	38	38	38
株式等売却益	621	287	287	287
その他の経常収益	203	146	146	146
経常費用	11,837	11,445	11,445	11,445
資金調達費用	347	318	318	318
預金利息	341	318	318	318
コールマネー利息	1	△0	△0	△0
その他の支払利息	3	0	0	0
役員取引等費用	1,346	1,349	1,349	1,349
支払為替手数料	220	208	208	208
その他の役員費用	1,125	1,140	1,140	1,140
その他業務費用	17	11	11	11
国債等債券売却損	16	10	10	10
金融派生商品費用	0	0	0	0
その他の業務費用	1	1	1	1
営業経費	9,282	9,328	9,328	9,328
その他経常費用	843	437	437	437
貸倒引当金繰入額	647	297	297	297
貸出金償却	71	35	35	35
株式等売却損	67	2	2	2
株式等償却	0	30	30	30
その他の経常費用	56	72	72	72
経常利益	1,449	1,571	1,571	1,571
特別利益	8	—	—	—
固定資産処分益	8	—	—	—
特別損失	100	79	79	79
固定資産処分損	6	1	1	1
減損損失	94	77	77	77
税引前当期純利益	1,357	1,491	1,491	1,491
法人税、住民税及び事業税	128	334	334	334
法人税等調整額	442	187	187	187
法人税等還付税額	△107	—	—	—
法人税等合計	462	522	522	522
当期純利益	894	969	969	969

■株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

前事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金		
				別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	9,061	6,452	6,452	2,628	26,145	1,211	29,984
当期変動額							
剰余金の配当					500	△1,014	△514
当期純利益						894	894
自己株式の取得						—	—
自己株式の処分						—	—
土地再評価差額金の取崩						46	46
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)							
当期変動額合計	—	—	—	—	500	△74	425
当期末残高	9,061	6,452	6,452	2,628	26,645	1,136	30,409

	株主資本		評価・換算差額等				純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△674	44,824	1,496	△0	1,008	2,504	47,328
当期変動額							
剰余金の配当		△514					△514
当期純利益		894					894
自己株式の取得	△1	△1					△1
自己株式の処分	—	—					—
土地再評価差額金の取崩		46					46
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)			△1,034	0	△46	△1,080	△1,080
当期変動額合計	△1	424	△1,034	0	△46	△1,080	△656
当期末残高	△676	45,248	461	△0	962	1,423	46,671

(単位：百万円)

当事業年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金		
				別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	9,061	6,452	6,452	2,628	26,645	1,136	30,409
当期変動額							
剰余金の配当					500	△968	△468
当期純利益						969	969
自己株式の取得						—	—
自己株式の処分						△0	△0
土地再評価差額金の取崩						11	11
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)							
当期変動額合計	—	—	—	—	500	12	512
当期末残高	9,061	6,452	6,452	2,628	27,145	1,148	30,922

	株主資本		評価・換算差額等				純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△676	45,248	461	△0	962	1,423	46,671
当期変動額							
剰余金の配当		△468					△468
当期純利益		969					969
自己株式の取得	△0	△0					△0
自己株式の処分	0	0					0
土地再評価差額金の取崩		11					11
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)			469	△0	△11	458	458
当期変動額合計	△0	511	469	△0	△11	458	970
当期末残高	△676	45,759	931	△0	950	1,882	47,642



財務諸表

注記事項（当事業年度（2020年4月1日から2021年3月31日まで）） （重要な会計方針）

1.商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）により行っております。

2.有価証券の評価基準及び評価方法

(1)有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については原則として決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(2)有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

3.デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

4.固定資産の減価償却の方法

(1)有形固定資産（リース資産を除く）

有形固定資産は、定率法（ただし、1998年4月1日以後に取得した建物（建物附属設備を除く。）並びに2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 6年～50年
その他 2年～20年

(2)無形固定資産（リース資産を除く）

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、行内における利用可能期間（主として5年）に基づいて償却しております。

(3)リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」及び「無形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

5.繰延資産の処理方法

社債発行費及び株式交付費は、支出時に全額費用として処理しております。

6.外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債は、決算日の為替相場による円換算額を付しております。

7.引当金の計上基準

(1)貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という。）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（以下「実質破綻先」という。）に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

上記以外の債権については、主として今後1年から3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年から3年間の貸倒実績又は倒産実績を基礎とした貸倒実績率又は倒産確率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は255百万円であります。

(2)投資損失引当金

投資損失引当金は、投資に対する損失に備えるため、有価証券の発行会社の財政状態等を勘案して必要と認められる額を計上しております。

(3)賞与引当金

賞与引当金は、従業員への賞与の支払に備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。

(4)退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。なお、数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

数理計算上の差異：各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（主として10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日から損益処理

(5)睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、利益計上した睡眠預金について、預金者からの払戻損失に備えるため、過去実績に基づく将来の払戻損失見込額を計上しております。

(6)偶発損失引当金

偶発損失引当金は、信用保証協会の責任共有制度の導入により、将来発生する負担金の支払に備えるため、必要額を計上しております。

8.ヘッジ会計の方法

(1)金利リスク・ヘッジ

金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第24号 2020年10月8日。以下「業種別委員会実務指針第24号」という。）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の（残存）期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。また、キャッシュ・フローを固定するヘッジについては、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。

(2)為替変動リスク・ヘッジ

外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第25号 2020年10月8日。以下「業種別委員会実務指針第25号」という。）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

9.その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1)退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2)消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しております。

（重要な会計上の見積り）

会計上の見積りにより当事業年度の財務諸表にその額を計上した項目であって、翌事業年度の財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりであります。

1.貸倒引当金

(1)当事業年度の財務諸表に計上した金額

貸倒引当金 3,690百万円

(2)識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

①算出方法

貸倒引当金の算出方法は、連結財務諸表「注記事項（重要な会計上の見積り）1.貸倒引当金」に記載しております。

②主要な仮定

主要な仮定は、「債務者区分の判定における貸出先の債務償還能力」であります。「債務者区分の判定における貸出先の債務償還能力」は、各債務者ごとに「返済すべき債務の大きさ」と「債務の償還原資となる将来キャッシュフローの大きさと安定性」に重点を置いて評価し、設定しております。

③翌事業年度の財務諸表に与える影響

個別貸出先の業績変化等により、当初の見積りに用いた仮定が変化した場合、翌事業年度に係る財務諸表における貸倒引当金に重要な影響を及ぼす可能性があります。

（表示方法の変更）

（「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用に伴う変更）

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」（企業会計基準第31号 2020年3月31日）を当事業年度の年度末に係る財務諸表から適用し、財務諸表に重要な会計上の見積りに関する注記を記載しております。

ただし、当該注記においては、当該会計基準第11項ただし書きに定める経過的な取扱いに従って、前事業年度に係る内容については記載しておりません。

（損益計算書関係）

利子補給金の表示方法は、従来その他の受入利息に含めて表示しておりましたが、金額の重要性が増したため、当事業年度より貸出金利息に含めて表示しております。それに伴い前事業年度の組替を行っております。この結果、前事業年度の損益計算書において、資金運用収益のその他の受入利息に含めて表示しておりました利子補給金1億48百万円は貸出金利息として組替しております。

（追加情報）

（新型コロナウイルス感染症の影響）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響は、今後の広がりや終息時期が見通せないなか、地域経済に与える影響は長期に亘ると仮定しております。こうした仮定のもと、入手可能な情報に基づき個別取引先の業況を勘案のうえ、貸倒引当金を計上しております。

なお、当該仮定は不確実性を有しており、新型コロナウイルスの感染拡大の状況や地域経済への影響によっては、貸倒引当金の積み増しが必要となるなど、当行の財政状態及び経営成績に重要な影響を及ぼす可能性があります。

（貸借対照表関係）

1.関係会社の株式又は出資金の総額

株 式	82百万円
出資金	404百万円

2.貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。

破綻先債権額	355百万円
延滞債権額	8,999百万円

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（1965年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

3.貸出金のうち3カ月以上延滞債権額は次のとおりであります。

3カ月以上延滞債権額	69百万円
------------	-------

なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

4.貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。

貸出条件緩和債権額	1,356百万円
-----------	----------

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。

5.破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。

合計額	10,780百万円
-----	-----------

なお、上記2.から5.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

6.手形割引は、業種別委員会実務指針第24号に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。

2,444百万円

7.担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産	
有価証券	69,744百万円
計	69,744百万円

担保資産に対応する債務

預 金	1,172百万円
借入金	63,700百万円

また、その他の資産には、保証金が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

保証金	404百万円
-----	--------

8.当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高	233,965百万円
うち契約残存期間が1年以内のもの	233,965百万円

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に（半年毎に）予め定めている行内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

9.有形固定資産の圧縮記帳額

圧縮記帳額	2,797百万円
-------	----------

10.[有価証券]中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額

16,416百万円

11.取締役及び監査役との間の取引による取締役及び監査役に対する金銭債権総額

4百万円

財務諸表

(損益計算書関係)

1. 営業経費には、次のものを含んでおります。

給料・手当	4,611百万円
土地建物機械賃借料	626百万円
減価償却費	757百万円

2. その他の経常費用は、次のとおりであります。

雑損	11百万円
偶発損失引当金繰入額	60百万円
投資損失引当金繰入額	0百万円

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

時価のある子会社株式及び関連会社株式はありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位：百万円)

	当事業年度 (2021年3月31日)
子会社株式	78
関連会社株式	4
合計	82

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：百万円)

繰延税金資産	
貸倒引当金損金算入限度超過額	937
退職給付引当金損金算入限度超過額	2,108
有形固定資産減価償却損金算入限度超過額	54
賞与引当金損金算入限度超過額	138
繰延資産償却損金算入限度超過額	67
有価証券償却損金不算入額	114
役員退職慰労金未払額	5
未払事業税	24
その他	346
繰延税金資産小計	3,797
評価性引当額	△225
繰延税金資産合計	3,571
繰延税金負債	
退職給付信託分	△1,703
その他有価証券評価差額金	△407
繰延税金負債合計	△2,111
繰延税金資産の純額	1,460

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率	30.45%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.61%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0.90%
評価性引当額	0.02%
その他	3.83%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	35.02%